

幸せな気持ちが広がる言葉

校長 成田 弥生

*ワクワク楽しかった体育祭

爽やかな青空のもと、5月28日に体育祭を行いました。

子供たちが決めた紅組スローガン「炎のバトン 思い一つに」、白組スローガン「雲外蒼天 光輝け」を実現するために、ベストを尽くした体育祭となりました。

それぞれの子供がゴールイメージを定めて、目標に向かって頑張るチャンスのひとつが行事でもあります。行事を通して、子供たちは大きく成長をします。

その成長を後押しするのは何でしょうか。それは、周りの大人や仲間が認めてくれること。また、期待してくれる誰かのために頑張ること。大切な人からの期待や励まし、さらには褒めて認めてもらうことが大きな励みとなり、成長につながっていきます。

子供たちの頑張りを、努力を認め、心から賞賛していきたいと思えます。

*相手意識を育てる

猿楽小学校に着任して、早いもので2カ月が経ちました。校内を毎日何度か回っている中で「優しい子が多い」と感じています。

雨の日のある朝、友達のランドセルが濡れているのを見た2年生の女の子がランドセルを丁寧に拭いてあげている姿がありました。6年生が毎日、とても優しく1年生のお世話をしてあげています。1年生の子が自分でできるようにそっと促し、根気強く待つあげる場面もありました。(大人はここまで待てないかもしれません)

休み時間の後には、委員会活動で下級生が使った一輪車や竹馬を丁寧にそろえている姿。遠足では、虫を怖がって泣いている友達に「大丈夫だよ。大丈夫だよ。」とずっと励まし続けてくれた子もいました。何だか涙が出そうなほど感動しました。

どうしたらこのように優しい子が育つのか。担任の優しい言葉がけを子供が真似をする。上級生が優しく面倒を見ている姿があって、優しい行動が下級生に受け継がれる。

優しい言葉や行動は、お手本となる身近な大人の姿から育っていきます。

「言葉は言霊」というように、温かい言葉、幸せな気持ちが広がる言葉を子供たち、そして身近な人に意識して、使っていきたいと思えます。

結びに、アメリカインディアンの言葉を紹介します。

- ほめられる中で育った子は いつも感謝することを知ります。
- はげましを受けて育った子は 自信を持ちます。
- 人に認められる中で育った子は 自分を大切にします。
- 仲間の愛の中で育った子は 世界に愛を見つけます。

～アメリカインディアンの教え(加藤諦三著)より抜粋